

モスクワ国際大学

交換留学報告書

国際関係学部 国際言語文化学科

モスクワ関係大学で過ごした3ヵ月は、非常に新たな発見の連続でした。当然その中には事前に話聞いていたことも多くありましたが、実際に経験して身に染みて思い知れたということも多いような気がします。そのおかげで、今では以前に比べてよりロシアが身近に感じられています。私のロシアでの学びを2つ紹介したいと思います。

まず初めに授業で感じたことを述べます。私はロシア語の授業に初めて出るときには授業についていけるのかとても不安に思っていました。なぜなら、ロシアでのすべてがロシア語で英語もほとんどないという環境の中で、店員さんの言っていることや標識に書いてある単語すらもわからなかったからです。恥ずかしながら日本での勉強は全然足りませんでした。このことは私自身に単語力と勉強が圧倒的に足りなかったことを実感させ、逐一スマホの電子辞書を開く日々が続きました。こういった状況であったため、初授業に出た際、クラスの人たちが普通にロシア語を話していることにはとても大きな衝撃を覚え、これほどまでに差があるのかと愕然とさせられました。そんな中1ヵ月ほどはなかなかクラスになじめない状態で、先生に質問を振られても何を聞かれているのかわからないため答えることができないという虚しい状態が続きました。しかし、最初はこういった絶望的な状況ではあったものの次第にコミュニケーションがとれるようになっていきました。何がコミュニケーションにつながったのかというと授業内での自分の自己紹介や家族についてのスピーチです。自分は何が好きなのかをはっきりと伝えることや、家族について話すだけでこれほど変わるのかと思いました。当然これは日本でも同じようなことはあるとは思いますが、私はここで初めて明確に実感しました。そして、こういったスピーチをきっかけとして増えていく挨拶や会話といったことがとても重要であることに気づかされました。また単純に私は授業で何も答えられないということに対して少し負い目を感じて先生を避けてしまうということをしがちなのですが、先生は全く気にせず何度も会話に付き合ってくれたことも良かったのだとおもいます。クラスメイト達とも共用のキッチンなどで会った時にはロシア語での会話をすることができました。こういったことから、授業の初めの頃は互いにどこか伺いあうような少し堅い雰囲気であったのが次第に改善され、わからないところがあってもすぐに質問ができるような授業へと変化していきました。とても楽しく質の高い授業が学べたことがとても印象に残っている。

次に留学生活で最も重要だと思ったことについて述べます。私が最も重要だとおもったのは情報です。気づいた時にはこんなに単純なことにも気づけなかったのかと思ったのですが、ロシアについての情報はGoogleよりYandexで調べたほうが圧倒的に手に入ります。当然ですが、日本語ではなくロシア語での検索です。加えて、ロシア人の友達からもらえる情報もとても重要でした。勉強の相談をロシア人の友達にしたのですが、子供の頃に見ていたアニメや簡単な物語など紹介してもらいました。ロシア人の友達は日本語を勉強しているグループがロシアにあったのでそこで知り合いました。そしてこのグループについて知ることができたのも過去にロシアに留学していた先輩の情報と紹介のおかげです。ほかに、私自身たまたま赤の広場付近へと出かけた際にたまたまやっていた街の日という祭り

に運よく見物することができましたが、これももっとよく調べておけば事前に知ることができたはずです。こういったことは自分一人ではどうしてもどこかで思考が固まってしまっているものだと思うので、どんどん人と会っていろんなチャンスを逃さないようにする必要があると強く感じました。たった3ヵ月の短い留学生生活を濃密なものにできて本当に良かったです。また、たくさんのことを教えてくれた先輩方や友達にはとても感謝しています。またせっかく今ロシアを身近に感じられる状態にあるので、少しでもロシアの情報に触れ続けていきたいと思います。

ロシアでの3ヵ月間はとても苦しい時もあったけれど、それ以上に多くのことを学ぶ機会でもありました。この経験はどこでも通用するものだと僕自身確信しているので、これから最大限に活かしていきたいと思います。